

合同部会

平成27年10月 5日（月）65

@小国町役場 大会議室

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 合同部会 要旨

- **日時** 平成27年10月5日（月） 18:30～20:30
- **会場** 小国町役場 4階 大会議室
- **出席者** 懇話会委員：別紙名簿のとおり
オブザーバー：別紙名簿のとおり
事務局：山口課長、佐藤室長、小野主査、廣瀬主任、渡部主任
- **配布資料**
 - ・策定懇話会概要
 - ・雇用創出部会資料
 - ・小国町人口ビジョン（素案）
 - ・小国町地域創生総合戦略（素案）
- **概要**
 - ①シンクタンクみらい水野氏から、総合戦略策定の背景・意義と他の自治体の動向について解説
 - ②各部会から、検討内容の発表と座長及び各部員からのコメント
 - ③事務局から、人口ビジョン（素案）及び総合戦略（素案）の説明

○ 話し合い要旨

① 地方版総合戦略の策定に向けた背景・動向等について

シンクタンクみらい水野氏が、別添のパワーポイント資料に基づき、人口推計や総合戦略をめぐる国・各自治体の動向、戦略策定の目的、総合計画との関連性などについて説明した。

② 各部会の検討内容の報告

部会ごとに討議内容について報告し、座長が総括した。また、委員全員が感想などを発言した。最後にオブザーバーからコメントをもらった。各委員、オブザーバーの発言内容は以下のとおり。

<雇用創出部会から>

(柿崎委員) 雇用創出部会では、どんなことをすれば雇用を創出できるかについて、各委員が具体的に考案し、それらのうち実現可能性が高いと思われるものを総合戦略の柱立てに沿って分類した。既存産業の継続的な発展支援、森林資源のさらなる活用と第一次産業の高度化、各分野の連携による山菜の販売ルートの開拓やレストランでの地元産品提供などのブランド化等が挙げられた。

(大谷委員) 私は農業をしているが、自分の子供は小国から出て行くのではないかと考えていたので、真剣に話し合いに参加した。他産業の方の意見を聞くことができ、充実した話し合いにできた。

(齋藤委員) これだけ多種多様の職業の方と、総合戦略という大きな内容について話し合うこ

とができ、大変貴重な経験だった。

(猪野委員) 人口減少や後継者の問題も含めて、商売をやめる人が増えている。私の子供も含めて、小国町に戻ってくるのができるのかなど、真剣に考えることができた。

(布施委員) 雇用創出部会では、各委員に自由な発想で雇用確保についての案を出してもらった。例えば、夏に農業、冬に除雪という就業形態をパッケージとして提供する「アグリスタータキット」や、付加価値の高い漢方薬用作物の栽培など。総じて見ると、自然素材の宝庫という特色を生かした原材料供給基地としての展開が見込まれる。企業誘致という考え方もあるが、小国町に来る必要性があるかがポイント。

一方で、雇用を創出するということは供給側の理論。働きたいが希望職種がないという課題がある。この町に住みたいから町にある仕事に就くのか、この仕事に就きたいから町を出るのか。私としては、この町に住みたいから仕事を創るという発想が必要。

<人の流れ創造部会から>

(山口委員) 1回目は自己紹介と小国に対する思いを話し、2回目にアンケート結果や総合戦略についての説明を受けての感想などを話した。それをもとにして3回目にそれぞれの提案を持ち寄り、検討した。

医療関係に興味がある中高生などに体験してもらう「オープンホスピタル」や、天然のかき氷、町営バスが来るまでの待ち時間を活用した交流、イベント団体の架け橋になる団体の設立、老人ホームやグループホームの増設、大学生などのワークショップで作るアスレチック、道の駅と総合センターの合体、大学生が除雪や農作業を体験する仕組みの創出、データセンターの誘致、コミュニティビジネスの仕組みづくりなどが提案され、それらの実現可能性について検討した。

提案が、1つでも2つでも実現されれば良いと考えている。

(山中委員) この部会では、自分自身の体験からスタートして、様々な提案をしてもらった。今住んでいる住民自らが、かつて小国を経験したことがあるUターン希望者や、住んだ経験はないが小国を好きな人たちのファンクラブ、経験したことがないIターン者などの人の流れを作るコアになる仕組みを作ることが重要。住んでいる人が活動していない町に、魅力はないという結論に至った。

(舟山(和)委員) 士気に満ちた方々と話しをでき、本当に楽しかった。小玉川青年団いちころで活動をしているが、他にも小国でイベントを行っている団体は多く、それらの連携をとることができればもっと面白いと思う。

(安部委員) 自分の若い頃を振り返ると、地区のことを深く考えて古田歌舞伎の活動に参加したわけではないが、活動を進めるうちに地域に対する意識が芽生えてきた。去年、1人の高校生が一生懸命頑張っている姿に心打たれた同年代の方が5人、6人と参加し、新しい人の流れが生まれた。自分たちで何かをやるという気持ちが重要。

(安部(隆)委員) この部会に参加し、経験豊富な大人の方と話す中で、自分の考え方も変わっ

てきた。人のつながりというものを知ることができ、また小国の良さを知ることができ、良い経験になった。

(舟山(玲)委員) 自分では想像もつかないような意見を皆さんから聞けて、大変勉強になった。そうした情報を発信できる人材になりたいと思った。

<結婚・出産・子育て部会から>

(工藤委員) 1回目の部会で、宮原先生から人口減少や県の動向などについて話しを聞いた後、思っていることをすべて付箋に書いて張り出し、2回目で具体的にどうすれば良いかを検討した。SNSの活用、FMラジオ局の開設、ご当地の魅力発信、子供がいる家庭へのサポートシステムなどの意見が出た。3回目には、結婚・出産・子育てだけではなく、町の魅力全体をアピールすることや、住民自身が健康でいられることの重要性について話し合い、他の部会で検討している内容と深い関係があることを感じた。また、町でやっている取り組みを意外と知らないという意見もあった。

(宮原委員) 小国で結婚・出産・子育てを増やすには、住んでみたい、訪ねてみたいと思ってもらえる必要がある。そのためには、小国の人がみんな心身ともに元気で笑い声がいつも聞こえてくるという町をつくっていくのが、一番説得力がある。町が魅力をもつということは、町の人一人一人がいくつになっても元気であるということ。それには、4つの部会で話し合った内容がバランスよく重なり合って、実践されていくことが重要という結論になった。

(今委員) この部会に参加する前に置賜広域事業の婚活にも携わっていた。魅力のある町にしていけないと、出会いも生まれないと思った。楽しいまちづくりに向け、自分でも企画を立てていきたい。

(河内委員) 結婚・出産・子育てをひとくくりにして考えるのは難しいと感じた。出会うための環境、出産のための環境、親としての環境は違う。いずれにしても、小国に目を向けてもらえなければ何も始まらないと感じた。

(金委員) 何も知らないまま部会に参加したが、やっているうちに楽しくなった。多くの人の意見を聞けて、大変勉強になった。それらをどう活かしていったら良いか考えながら、小国の役に立っていきたい。

(舟山(咲)委員) 自分の考えを声に出して伝えることで、打ち解け合えた。中学校の頃、小国に貢献するにはどうしたら良いかという学習をやったことがあり、そこで思っていたことを今回伝えることができ、良い経験になった。小国についてよく考えるきっかけにもなった。

<地域創造・暮らし安心部会から>

(佐藤(靖)委員) 関司先生の提案で、1回目の部会で10年後の自分について想像し、2回目はその振り返りとアンケート結果から見えるものを討議した。3回目はテーマに沿って課題を深めた。「医療、出産、防災など、町だけで解決するのが難しい課題については広域連携

によって対応したら良いのではないか」「就業・雇用の場や起業については、どういう人材が必要か、学校教育と企業が腹を割って話し合ったら良いのではないか」「各地区のイベントや活動の連携をとる必要があるだろう」「若者のコミュニケーションの場を確保することが重要」という4点の課題が抽出された。

町を形成していこうとする若者が未来を見ることが出来る展開こそが、本当の意味での地域と暮らしを作り上げていく一番のファクターであるとまとめたところ。

(渡部委員) 一番感じたのは、皆さんが色々な考えを持っているので、それらをひとつの方針にまとめ上げるのは大変な作業だということ。地元の本当の意見を取り入れてもらえるのはありがたい。先ほど水野さんが話された人「幸」創生という考え方でいけば、自分たちの楽しいと思うことをやっていけば無理せずとも人は来るのではないかと思った。

(金野委員) テーマが大きく、どのように考えれば良いか悩んだが、部会では地域行事や自分の仕事を子供にどう伝えるかといった身近な話しが出た。そういう個人的な、具体的なものが一番実現性の高い部分だと思うので、そういうものを応援する計画にしてほしい。

(舟山(靖)委員) アンケートで若い人たちが町に愛着を持っているという結果が出た。これは嬉しいこと。一方、現実として人口が減る中で、漠然とした不安を抱えて生活している人も多い。不安を良い方向に変えて、小国町が発展していくための活動に参加していきたい。

(山口課長) 部会の最後に、凶司先生から「戦略は作ってからが重要。懇話会や住民にフィードバックする場を大事にしてほしい。行政の中で結論を閉じず、どうやって実現するかを住民に示されたい」とのコメントをもらったところ。

<オブザーバーから>

(後藤課長) それぞれの地域、家庭、職場などで日頃思っていることからの視点でとりまとめが成されたことは、非常に貴重なものと受け止めている。

(阿部事務長) 3回の話し合いというのは時間が足りなかったのではないかと感じた。大変色々な意見をいただいた。

(伊藤所長) かつて社会教育で若い人たちが集まる場を設けたが、今回、それが大変良かったという声が聞かれた。今後、そういう機会があればぜひ協力をお願いしたい。

(井上課長) 部会では面白い発想が数多く出された。こうした話しで盛り上がること自体が有意義。今後もこうした場を継続的に作れればと感じた。

(菅野主幹) 小国町に対する皆様の熱い思いを感じた。生活水準が上がると不平不満が増えてくるが、歳をとっても自分でがんばる方も多い。やる気を起こさせるような地域づくりに向けて取り組みたい。

(仁科主幹) 交付金や人口をどう奪い合うかという議論になっている。外部の人や住んでいる人の意識や気持ちの流れをどう小国町に向けるかという議論が重要だと感じた。

(加藤次長) 部会では高校生2名から、しっかりとした意見を聞くことができ、行政では思いつかないような発想もあり、楽しかった。

(舟山事務局長)雇用創出部会は、小国の水を使ったクアーズの地ビールという話しから始まって、大変面白い意見をまとめていただいた。高校生からも「これからの小国を背負っていく」という覚悟も聞いた。これからもがんばってほしい。

(舟山主幹)地域づくりの目的は豊かさを求めること。皆様方の意見を聞いて、これからは精神的な豊かさの時代だと感じた。

(原田課長)様々な出産・子育ての支援をしているが、出生数は減っている。施策の情報が求められているのに、皆様に伝わらない現実がある。発信のあり方について考えていきたい。

(野澤会計管理者)地域の皆様の貴重なご意見や、高校からのしっかりした考えを伺うことができた。これからもご協力をお願いしたい。

③ 人口ビジョン（素案）及び総合戦略（素案）について

小野主査から人口ビジョン（素案）について、佐藤室長から総合戦略（素案）について説明した。記載の過不足や修正意見について、翌週末（10月16日）を目処に事務局まで連絡していただくこととした。

